

2018年度 学校評価(自己評価)

2018年度は、学校目標として次を設定した。

- ライフ・デザインを構想し進路を創造できる教育の充実
- 地球規模の問題に挑戦・貢献しうる資質を伸ばす教育の充実

また、これらの目標を遂行するため、以下の項目を上げ、その他の教育活動も含め、さらなる向上を図った。

- 主体的にライフ・デザインを構想し進路選択が出来る施策の実践・拡充
- 各大学院との連携強化と高大接続の具体策の実践・拡充
- 留学機関を含む3年卒業制度の円滑な運用と留学機会の拡充、留学支援の充実
- 生徒の特性を活かした活動の推進と日常教育活動全般の改善・充実
- SGH(スーパーグローバルハイスクール)構想の実践・感性と遺産の継承・発展
- SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の成果の普遍化と科学教育の充実
- 中学部と高校の円滑な接続

以下、それぞれの項目についてその遂行状況を概観する。

- 主体的にライフ・デザインを構想し進路選択が出来る施策の実践・拡充について
高校入学当初から研究・学問の内容に関心を持ち将来のキャリア・プランに関する意識を向上させるとともに、能動的な進路選択の意識を高めることを目的に、6月14日(木)に高校1年全員を対象に、高等学院OBで早稲田大学理工学術院の若手研究者の堀圭佑氏による「ライフ・デザイン講演会」を実施した。また、本年度から「nendo留学」(インターンシップ)などの社会連携を行うなど、様々な施策を実践・拡充した。
- 各大学院との連携強化と高大接続の具体策の実践・拡充について
各大学院の学問・研究内容に知的関心を持って進学できるよう、現行の学部設置科目の受講を拡充するとともに、本年度から新たに6月から11月までの間、「学部ウィーク」として、それぞれの大学院での日常的な研究活動や授業内容、学生生活などについて広報活動を行った。
- 留学機関を含む3年卒業制度の円滑な運用と留学機会の拡充、留学支援の充実について
2017年度に実働した「1年間の留学期間を含む3年卒業制度」を円滑に実施し、2018年度はこの制度で留学の4名(昨年は2名)が留学した。また、年間留学を行った生徒が合計で10名、夏休みや春休みなどを利用した短期の留学・海外研修・海外派遣は188名であった。また、海外からの受入留学生・海外からの来校高校生は合計164名となり、

台湾・フランス・中国・ドイツ・韓国・ロシア・オーストラリアで合わせて 10 の協定校・協定機関と連携し国際交流と留学のより一層の充実をはかった。

- 生徒の特性を活かした活動の推進と日常教育活動全般の改善・充実について
生徒の主体的な活動の支援、学習・研究意欲を引き出す教科学習の研究・実践に努めるとともに、放課後の補習などを行うことができる「学習室」を整備し、生徒の特性を活かした活動の推進を日常教育活動全般の充実をはかった。
- SGH（スーパーグローバルハイスクール）構想の実践・感性と遺産の継承・発展
2014 年度に SGH（スーパーグローバルハイスクール）指定を受けてから 5 年目となる今年度は、指定最終年度となることを踏まえ、課題研究「多文化共生社会の創造・維持・発展」に関する取り組みを実践するとともに、これまでの成果を指定終了後となる来年度以降の活動に継承・発展させるため、英語や第二外国語、総合的な学習の時間における授業内容にとどまらず、課外におけるフィールドワークや海外研修活動のさらに充実させた。
- SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の成果の普遍化と科学教育の充実
SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の経過措置校としての指定が昨年度終了した今年度は、同窓会学術研究奨励金制度の支援による研究・探究活動の奨励や、本校主催の「首都圏オープン生徒研究発表会」において早稲田大学理工学術院との連携を深めるなど、これまでの成果の普遍化と科学教育の充実に努めた。
- 中学部と高校の円滑な接続
中学部第四期生の高校卒業をむかえ、様々な活動においてリーダーとして活躍する中学部出身の生徒が増えるとともに、高校 3 年生の中学部生の学習発表会へ向けた準備等を手伝う総合学習サポーターの取り組みの継続など、中学部と高校の円滑な接続のためのこれまでの成果をさらに発展させた。

以上

2018年度 保護者・生徒を対象とした学校評価アンケートについて

今後の高等学院および高等学院中学部の教育をより良くするため、保護者・生徒を対象にしたアンケートを実施した（2012年度に引き続き7回目）。以下（1）質問項目、（2）アンケート結果、（3）アンケート結果の分析と改善点等を述べていく。

（1）質問項目

学校全体の取り組みについて

- 1．高等学院は生徒の自主性・自立性の育成に努めている
- 2．高等学院は中学・高校と大学との連携に努めている
- 3．高等学院は国際交流の推進に努めている

学習指導について

- 1．指導方法を工夫し、質の高い授業が行われている
- 2．生徒の進度やレベルに合った授業が行われている
- 3．生徒一人ひとりの学力を伸ばす授業が行われている
- 4．適切な評価が行われている

生徒指導について

- 1．組主任は生徒の欠席・欠課・遅刻の状況を把握し、生活面の指導を適切に行っている
- 2．組主任は生徒の成績を把握し、学習面のサポートを適切に行っている
- 3．組主任は進級・進学などのルールについて、保護者・生徒へ適切に説明を行っている
- 4．組主任は学部・学科などの情報を保護者・生徒に提供し、適切に進路指導を行っている
（生徒は高校のみ）

クラブ活動について

- 1．生徒の安全面に配慮した適切な指導が行われている
- 2．部長（顧問）は部員とコミュニケーションを取り、生徒の把握に努めている
- 3．部長（顧問）は部活動の内容について、保護者へ適切に情報を提供している
（生徒は高校のみ）

授業や勉強へのあなたの取り組みについて【生徒のみ】

- 1．私は授業に積極的に取り組んでいる
- 2．私は授業時間以外にも積極的に勉強をしている
- 3．私は授業時間以外にも積極的に取り組んでいるものがある

(2) アンケート結果

別紙の表およびグラフを参照していただきたい。

(3) アンケート結果の分析と改善点等

学校全体の取り組みについて

質問項目1. 「生徒の自主性・自立性の育成に努めている」においては保護者全体で59.6%（昨年度56.6%・一昨年度56.8%）、生徒全体で38.3%（昨年度38.0%・一昨年度34.7%）が「そう思う」と回答している。また生徒全体では、「ややそう思う」の評価を加味すると、73.8%（昨年度74.5%・一昨年度70.6%）が肯定的な回答をしたことになる。保護者・生徒ともに、評価していると回答した割合は昨年度・一昨年度とほぼ同じで、これは「生徒の自主性・自立性の育成」という本校の目指す教育理念が保護者・生徒ともに深く浸透していることを示しているといえるだろう。

質問項目2. 「中学・高校と大学との連携の推進に努めている」生徒全体では「ややそう思う」が35.6%と最も多く、「そう思う」（28.2%）と合わせると63.8%が肯定的な回答となり、昨年・一昨年と比較して評価が上がった。また、保護者全体でも「ややそう思う」が40.6%と最も高く、昨年までと同様に肯定的な回答が高くなっており、中高大連携の実践についての取り組みが生徒・保護者ともに浸透してきている。

質問項目3. 「国際交流の推進に努めている」では、保護者全体では「そう思う」「ややそう思う」を合わせて80.8%、生徒全体でも「そう思う」「ややそう思う」を合わせて78.3%となった。2014年度からスーパーグローバルスクール（SGH）に採択されて本年度が完成年度の5年目となったが、約8割の保護者・生徒に国際交流を推進している高等学院の取り組みが評価されていることを窺うことができる。

学習指導について

質問項目1. 「指導方法を工夫し、質の高い授業が行われている」に対して、昨年と同様、中学生・高校生とも「ややそう思う」が最も高く（中学45.2%、高校35.7%）「そう思う」と合わせると、中学82.7%（昨年度84.0%・一昨年度75.8%）高校57.1%（昨年度69.7%・一昨年度51.2%）となっている。中学は昨年度・一昨年度よりも評価がさらに上がっており、高校も、昨年よりは若干下がったものの一昨年よりも高い評価となった。今後とも授業の質の向上に努めていく必要がある。

質問項目2. 「生徒の進度やレベルに合った授業が行われている」および質問項目3. 「生徒一人ひとりの学力を伸ばす授業が行われている」の評価については、生徒全体では「どちらとも言えない」が最も高く（項目2.31.6%、項目3.31.5%）なった。「そう思う」「ややそう思う」合わせた肯定的な回答も半数近く（項目2.48.4%、項目3.44.0%）あったが、今後、各教員による授業の質の向上のより一層の努力が必要となる。

質問項目4. 「適切な評価が行われている」では、生徒・保護者とも「ややそう思う」が最も高くなっている（生徒全体35.2%、保護者全体44.9%）。普段の授業における評価が進級・進学の際に非常に重要となる本校では、「そう思う」という評価が最も高く

なるよう、今後も改善に努めなければならない。

生徒指導について

1～4全ての項目において「そう思う」が各学年とも最も多い回答になっており、これまでと同様に、保護者・生徒ともに高評価が得られている。組主任と生徒・保護者との信頼関係が良好の状態が保たれており、生徒に対する生活面・学習面でのサポート態勢が組み立てられていることが、この結果からわかるだろう。

本校では、学部説明会やモデル講義、本校OBである学部生・大学院生と本校生徒との懇談会等を通して、学部・学科の情報を生徒・保護者へ伝えていることで、卒業生全員が早稲田大学へ進学することが前提となっている生徒たちへ早い段階から意識づけを行い、自身の進路について考えさせる教育を行っている。今後もこのような機会を設定・拡充し、生徒が適切な進路決定へ結びつけるよう努めていきたい。

クラブ活動について

質問項目1.「生徒の安全面に配慮した適切な指導が行われている」について、保護者全体・生徒全体ともに「そう思う」が最も多く（保護者全体 36.2%、生徒全体 37.4%）なり、生徒全体で評価が高くなった。

また、質問項目2.「部長（顧問）は部員とコミュニケーションを取り、生徒の把握に努めている」については、保護者全体では「ややそう思う」が最も多く（31.5%）昨年度とほぼ同様の傾向あった。一方で、生徒の方を見ると、全体で「そう思う」が最も多かった（31.7%）。生徒・保護者ともに否定的な意見は少ないものの、今後も部長（顧問）と生徒との間のコミュニケーションの重要性をしっかりと認識する必要がある。

高校生への質問項目3.「部長（顧問）は部活動の内容について、生徒へ適切に情報を提供している」は、高校全体で「そう思う」が最も高い評価となっている。一方、保護者の方では全体で「ややそう思う」が最も高い結果となっており（26.8%）、「そう思う」（22.8%）と合わせると49.6%と昨年とほぼ同じ評価になっている（昨年度 54.0%）。今後も部長（顧問）と生徒・保護者との連携を密にする努力を続けていくことが重要となる。クラブ活動への参加率はかなり高い本校において、高校生活におけるクラブ活動の意義は非常に大きく、安全面の配慮に十分注意しながら、部長と生徒・保護者との良好な関係を保つことで、生徒にとって有意義な活動になるよう努力を続ける必要がある。

以上